

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号			
法人名	有限会社成栄測量設計事務所		
事業所名	グループホームティアラ		
所在地	富岡市富岡362-7		
自己評価作成日	平成28年10月	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成28年10月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の進行に伴い、ADLの低下が目立ってきている。その人らしい食事・排泄・入浴等を考え、情報を共有し、段階的にケアを変更し、統一している。できることが限られている中で、生活そのものの中から喜びが得られ、苦痛の少ない日々が送れるよう、常に考えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、利用者の目線の位置で、一人ひとりの動きや話し方に合わせ対応し、ゆったりした時の流れのなかで自分らしさを保ちながら、楽しく、心豊かに生活できるよう話し合いを重ね実践している。また、地域住民との交流に積極的に取り組み、地域の活動や役割を担っている。その他、看護学校の実習や中学校の体験学習を受け入れ、女子高生が毎週水曜日にボランティアに訪れるなど、孫のような子供たちとの交流が行われている。医療においては、これまでのかかりつけ医への受診が継続できるよう支援し、終末期においては、医師、訪問看護師、家族と何度も話し合いを重ねチームで取り組んでいる。運営において管理者は職員の意見に耳を傾け、職員は子供が休みの時に事業所へ一緒に連れてきたり、職員同士が互いの気持ちを尊重しあい、過去6年間退職者はいない。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し、実践につなげる努力をしている。	「ゆったり、一緒に、楽しく、豊かに」の理念を掲げ、ゆったりした時の流れのなかで、自分らしさを保ちながら、楽しく、心豊かに日々過ごせるように努めている。管理者や職員は、実践のなかで話し合いをしたり、個々に振り返りを繰り返したりしながら、理念の共有に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域情報を得ている。区長、組長、民生委員の方と密接な関わりを持ち、行事等を地域の方と共に行っている。	代表者が自治会の役員に就任し、ゴミ収集所の整備を行っている。富岡市の「どんと祭り」では町内の山車が事業所に立ち寄り、利用者と歓談している。散歩の人がトイレを借りに寄ったり、近所の人を訪れ利用者と一緒におやつを食べたり、家族の入居の相談をしたり、日常的な交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し、認知症についてお伝えしている。地域の人々からの相談にも応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常のケアに触れたり、避難訓練等に参加して頂き意見交換し、次回に活かすようにしている。	会議は、区長、組長、民生委員、家族の会長等が参加し、防災訓練や母の日バイキング、創立14周年記念会、正しいおむつの当て方勉強会等に合わせて開催している。会議では、災害時の対応等の意見が出されているが、事業所活動状況や目標達成計画等は口頭で説明し、議事録に記載していない。	会議を2ヶ月に1回以上開催し、会議では事業所活動状況や利用者の状況、評価結果と改善の取り組み等を報告し、参加メンバーから質問、意見、要望を受け、双方向的な会議とし、サービス向上が図れるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当職員に電話での連絡や文面での報告等を速やかに行ない、実情をその都度伝えている。	市主催の「グループホームケア会議」に出席し、各事業所の取り組み状況や問題点を共有し、課題解決について話し合いサービスの向上に活かしている。また、市職員が事業所を訪れ、利用者の希望を叶える方策等を一緒に話し合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が勉強会を通し、学んでおり、時間帯、状況に応じて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしない工夫について話し合い、時間帯や状況に応じて拘束をしないケアに取り組んでいる。家族からの希望や同意を得て、危険防止のため車椅子に保護帯を使用したり、転落防止のためベットの柵の使用、衛生上つなぎ服の着用をしている利用者もいる。	身体拘束の内容とその弊害について再度話し合い、「しないケア」への取り組みを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全ての職員が勉強会を通し、学んでおり、ケアの密室化による虐待が防止できるようなシフト体制にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修は受講しているが、活用できるよう支援する機会がまだない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者やご家族に不安や心配なことを聞き出し、安心できるよう十分な説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の委員の皆さんの意見やご家族の面会時などの話を傾聴し、運営に反映される努力をしている。	家族の面会時や利用料を持参した時に、利用者の状況を報告しながら、意見や要望を聞いている。苦情を言えない環境ではなく、家族からの私的な相談等に応じながら、聞く努力をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の話を聞く機会を作り、反映させている。	管理者は、職員一人ひとりと話し合う機会を設け、個々の意見や要望を聞いている。職員は申し送りやミーティングなど日常の業務のなかで、運営に関する意見を出し、物干し場の設置を提案したり、行事のアイデアを出したりしている。	事業所の運営や大事な決定事項などは、職員が集まったなかで報告や意見交換が行われるよう、全職員で話し合う定例の会議が開催されることを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日常の勤務状況やミーティングなど、職員個々の努力や実績を把握し、環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの立場、環境を把握し、活躍できるよう支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流する機会を設け、意見交換や情報交換を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の生活を知り、馴染みの生活用品で、安心して生活できるような環境作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	それぞれの家族の関係性を大切に、困っていることに、耳を傾け、要望に応じ、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の状況により、できることを見極め、必要としている支援には、すぐに応じるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や片付け、洗濯物たたみ等を共にし、役割を持つことにより支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族からの情報や思いを大切に、家族との温かな絆が保持できるように共に支え合う関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚、友人の来所を歓迎し、共にお茶を楽しめるような環境作りをしている。馴染みの店や美容室に行けるよう支援している。	町内の方が入居しており、町内の友人や知人が訪ねて歓談したり、利用者の同窓会場として事業所を提供したりしている。家族に電話をしたり、家族と墓参りに行ったり、馴染みの理髪店に通ったり、外食や買い物に出掛けたり等、地域社会とのかかわりを継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々変化する関係を把握し、必要に応じ、席替えや居室移動も行い交友関係が築けるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、相談や支援できるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向を表現しやすいような雰囲気や時間を見出すよう努めている。困難な場合は生活歴や日常生活から希望を導き出している。	日々のかかわりのなかで、休憩をとる時間など希望に合わせ柔軟に対応している。また、利用者同士で話すことが疲れるなどの場合は、状況にあわせて席替えをしている。意思疎通の困難な人は声かけをした反応を観察し、家族からの要望をもとに本人本位の支援を心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に生活歴を記入して頂き、これまでのサービス利用からの情報提供により、経過を把握している。家族からの馴染みの暮らし方を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、夕のバイタルチェック、日々の観察により把握している。ミーティングでの情報を共有し、有する力の変化を知り、現状を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	それぞれの立場からの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月のモニタリングは、利用者一人ひとりの状況を、日々のケア記録から主要事項を抜粋し、職員からも聞き取りを行っている。モニタリングで課題が生じた時は、医師、看護師、相談員、家族等関係者全員でサービス担当者会議を繰り返し、計画を修正している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録し、情報を共有しながら、気づきや工夫を介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体機能の低下に伴い、リフト浴を設置し、相応しい入浴方法を選択できるよう対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者が心身の力を発揮しながら、安全で楽しく暮らして行くことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医との関係も考慮しつつ病状によっては、病院の意見や往診により、適切で、断続的な医療が受けられるよう支援している。	協力医の診察内容は、家族へ電話で報告し、情報を共有している。本人、家族が希望するかかりつけ医の受診は、家族が通院介助し、受診の際は事業所から症状を記載した書面を渡し、診察後は医師から文書で報告を受け、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診時に、日常生活の中での気づきや情報を伝えるよう努力している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、現状に至るまでの症状やケアについて家族に伝え、今後についての話し合いを行う。継続的な医療が必要な時には、主治医から家族に話してもらう。	入居時に看取り介護の方針を説明し、昨年度は3人の看取りを行っている。重度化した場合は、段階ごとに医師、訪問看護師、家族と話し合い、家族の気持ちを繰り返し確認しながら、希望に沿って支援をしている。看取りの導入時は、医師からの勉強会を重ね、職員の不安への対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当マニュアルを作成し、勉強会で学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回避難訓練を実施している。1回は消防署の指導のもと夜間などの様々な場面を想定し、入居者、運営推進会議の方と共に訓練している。	年2回とも夜間を想定した避難訓練を行い、うち1回は消防署の指導を受けている。近隣の人達も参加し、見守りを依頼している。備蓄は、発電機、卓上コンロ、食料、飲料水がある。厨房にはマッチやライターを置かず、毎日火元の確認を行い、火事を出さないように心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助時は、特にプライバシーを損ねないよう配慮している。人格を尊重するため必要に応じ、席替えや居室移動も検討し、行っている。	管理者は、常に目上の人として親しき仲にも礼儀を忘れずに接することを、職員に指導している。職員は、入室の際はノック、排泄時はカーテンを閉じて声かけを行う、言葉遣いに気をつけるなど、利用者のプライバシーと尊厳を傷つけないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事準備をする前に食べたいものを聞いている。入浴準備を職員と一緒に好み好みの衣類を選べるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	休憩をとる時間等、その日の体調や希望に合わせて、柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装についてはセンスの良さやその人らしさが表現できている様子を伝えている。ヘアスタイルは訪問美容の美容師さんよりアドバイスを頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえ、盛り付け、味見、後片付け等、それぞれの役割を持ち、職員と会話しながら行っている。食事補助をしながら、職員も一緒に食事を楽しんでいる。	献立はたてずに、利用者の希望を聞きながら決めている。白菜漬けなどをし、庭で収穫した野菜を使い、十五夜やおせちなど行事食を大切にしている。利用者の持てる能力に応じ皿やお盆拭き、野菜の下ごしらえを手伝い、利用者は職員と同じテーブルを囲み食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量はチェックし、業務日誌に記録し、情報を共有している。状態に合わせて、きざみ食、ミキサー食等も提供し、水分にトロミを付け、誤嚥にも注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内に食べ物が、残らないようケアしている。入れ歯は外して洗浄している。状況に合わせて夜間は外している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意や便意に合わせて、訴えや仕事ですぐに応じるようにしている。排泄パターンを把握し、共有している。	トイレでの排泄を大切に、訴えやしぐさなどから察し誘導している。夜間おむつをしている人も日中はパンツに替えるなど、一人ひとりに合わせて検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を用い、三日以上便秘が続かないよう統一している。牛乳、ヨーグルト、食事等で自然な排便を促すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週二回の入浴日とリフト浴日を設け、体調や希望に応じ、入浴が楽しめるよう声をかけている。	週2日入浴日は決めているが、入浴したい日や一番風呂など一人ひとりの希望を聞いている。入浴時は、昔話や趣味など普段は言わないことも職員に話す機会であり大切にしている。入浴を拒否する人には時間や人を替えて誘い、ゆず湯や菖蒲湯などを使用して、香りを楽しみ入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を大切にし、希望があれば畳部屋にもしている。冬は湯たんぽ、夏は希望によりアイスノンを用い、安眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書専用ファイルを設け職員全員が理解できるようにしている。症状の変化や薬の変更については、お薬手帳に記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を参考に得意な分野で役割を活かせるよう支援している。年中行事を通し、楽しみごとと気分転換をはかっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候をみながら希望があれば散歩、買い物に出かけている。家族に外出を呼び掛けている。毎週出かけ、外食している入居者もいる。	季節ごとに桜の花見等に出かけたり、家族とドライブを兼ねた外食や買い物に出かけたりしている。日常的には近所を散歩したり、買い物に出かけたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持することにより、安心できる方は、所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をしたいとの訴えがある時は、電話している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には花を飾り、野菜作りをして季節感をもてるようにしている。台所からの音や香りがホールで感じることができ、生活感がある。	居間兼食堂の天井は高く、天窓から明るい陽光が差し込んでいる。季節を代表する花や景色に利用者が塗り絵をしたものや、季節の活花が飾られ、ソファは気の合う人同士が会話できるように配置し、ゆったり過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置き、独りになりたい時や気の合った人と過ごせるよう居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に使い慣れた寝具や馴染みのものを持参するよう伝えている。	家具や寝具、絵本が持ち込まれ、家族の写真や利用者が作った造花が飾られたり、家族からの希望で花木の鉢植えが置かれたり等、それぞれの利用者が居心地良く過ごせる居室づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のドアの所に名前を貼り自室に戻れるよう工夫している。		